

第1章 昭島市の環境を将来の世代に引き継ぐために

1 昭島のまちの魅力

昭島市は、多摩川や玉川上水、緑が連なる立川崖線や清らかな湧水など、多様な水と緑に恵まれた都市として発展してきました。

(1) 水と緑の豊かな自然環境

昭島市は、深層地下水 100%の水道水を可能とする水資源や多摩川由来の崖線など豊かな緑の自然に恵まれた環境にあり、都心へも奥多摩の山々へも1時間程度と恵まれた立地条件にあります。市域の南側に多摩川、東側に残堀川の2つの河川と、北側には玉川上水が流れており、樹林が残る立川崖線の崖からは湧水が湧き出るなど多様な水と緑があり、それらがまとまりをもって、水と緑のネットワークを構成しています。

(2) 水を育む循環

昭島市の水道水は、地下水のみを水源とした深層地下水 100%の水であり、安全で美味しい「あきしまの水」は、市民の宝となっています。この深層地下水は、降水や多摩川の河川水、上流域（南西方面）からの地下水流入でかん養されていると考えられています。

一方、昭島市やその周辺に降り注ぐ雨が地面から地下に浸透した浅層地下水があります。比較的浅い位置にある地層を地下水が流れ、「東京の名湧水 57 選」に選ばれた諏訪神社や龍津寺をはじめ、拜島公園などの崖線沿いで湧水として湧き出しています。

私たちは、地下水を利用しながらも、健全な水循環を維持・保全していくことにより、生活や農業などのさまざまな用途で水を利用し、水のある生活を楽しむことができます



多摩川



立川崖線



玉川上水



諏訪神社の湧水



日吉神社の社寺林



保存樹林

(3) 昭島の水と緑がもたらす“自然の恵み”

昭島市は、多摩川や玉川上水、緑が連なる立川崖線や清らかな湧水など、多様な水と緑に恵まれたまちです。これらの水や緑は、都市の魅力を高め、私たちの生活環境を豊かにしてくれるなど、さまざまな役割を果たしています。

樹林地や農地、河川などは、多様な生物を育む生息・生育のための空間を提供しています。街路樹や公園などの緑は、二酸化炭素（CO₂）を吸収し地球温暖化防止に寄与するほか、ヒートアイランド現象や騒音、大気汚染などの生活環境を改善してくれます。公園や河川・用水路沿いの歩道は、人々に憩い・交流、運動・健康増進、自然とのふれあいなどを楽しむ場を提供してくれます。

そして、このような水と緑は、自然環境の主要な構成要素であるとともに、わたしたちが快適な生活を安心して暮らしていくためには欠かせないものであり、また生物にとっても生育・生息する上で、必要不可欠なものです。

図1-1 昭島市の水と緑



図1-2 水と緑の役割（機能）

環境保全	レクリエーション	景観形成	防災
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物の生育・生息の場 ○ 気温上昇の抑制、騒音軽減、CO₂吸収 ○ 地下水のかん養 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人々の憩い・交流の場 ○ 運動・健康増進の場 ○ 自然や農とのふれあいの場 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 良好な景観の形成 ○ 歴史・文化資源と調和した郷土の景観 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の避難場所 ○ 樹木による延焼防止 ○ 雨水の貯留・浸透

(4) 市民による水と緑を守る活動の輪

昭島市では、市内各地でまちなかの緑化や公園緑地の維持管理、水辺を活かした活動など、水と緑に関するいろいろな取組が活発です。

例えば、市内の道路や公園、花壇、崖線の樹林地では、アダプト団体として登録した市民の方により、施設や緑地などの清掃・維持管理が行われています。また、環境活動リーダーと市の協働により、市の管理緑地のせん定や伐採などが行われています。さらに、市民団体では、市内の生物の調査や観察、市民が生物多様性を理解することにつながるマップの作成などの活動が行われています。



エコ・パーク内での取組



「奥多摩・昭島市民の森」
での森林教室



道路のごみ拾い活動

(5) 水と緑を通じた交流・連携の広がり

平成 26（2014）年に友好都市協定を締結した岩手県岩泉町や、小河内貯水池建設時に多くの方が昭島市へ移転した歴史を持つ奥多摩町とは、それぞれ「岩泉・昭島友情の森」や「奥多摩・昭島市民の森」が設置され、自治体間や市民町民間の緑の自然環境を通じた広域的な交流も行われています。

市内事業者が参加する「環境配慮事業者ネットワーク」では、事業活動での環境配慮の取組の向上とともに、地域の課題解決への貢献として、水・緑をはじめ生活環境の保全などの環境保全活動を実践しています。

水と緑を通じた市民・事業者の参加や協働による環境保全活動は、水と緑を守り育てるとともに、より多くの市民に昭島の水と緑への意識・関心を高め、取組実践への好循環を生み出します。

昭島の水・緑を次世代に引き継ぐ

地球上には個性豊かなさまざまな生物が存在し、バランスを保って共存しています。生物の豊かさ（多様性）があることで、私たちは食材の供給や地球環境の維持など、さまざまな恩恵を受けています。しかし、市内では樹林地や農地の減少、気候変動による気象災害や自然環境への影響などによって、生物が生息・生育できる空間がさらに減少することが懸念されます。

- 昭島市の水と緑、そして生物多様性を保全することは貴重な地域の資源を守り、まちの魅力を高めることにつながります。昭島市に暮らし、働く私たち一人ひとりが、日常において生物多様性への配慮を意識し、行動することが大切です。
- 水と緑の豊かさは、昭島の魅力を高め、賑わいにつながります。水と緑のまちづくりを市民協働によって進めることで、市民意識・関心の向上にもつながります。
- 市民の生活は、必要な食料やエネルギーの多くを昭島市以外の国内外の地域に頼ることで成り立っています。日常の消費行動が、他地域の自然環境に対しても大きな影響を与えていることに目を向けることが大切です。

2 昭島市が直面する環境リスク

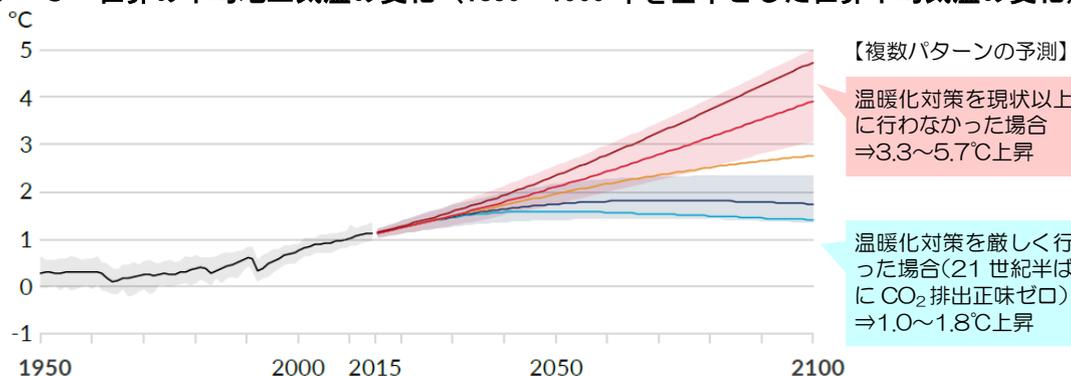
世界の気候が変動することにより、市域の自然環境や生活環境、人々の社会・経済にまで影響が及ぶことが懸念されます。

(1) 進行しつつある地球温暖化

平成22(2010)年～令和元(2019)年の世界の平均気温は、工業化以前と比べ、約1.09℃上昇しました。

将来の気温の予測は、令和3(2021)年から令和22(2040)年の間に、1.5℃の上昇に達するとの見通しが示されています。また、21世紀末では、最も温暖化が進んだ場合で最大で5.7℃の上昇、最も温暖化を抑えた場合でも約1.8℃の上昇と予測されています。

図1-3 世界の平均地上気温の変化(1850～1900年を基準とした世界平均気温の変化)



出典：IPCC第6次評価報告書第1次作業部会報告書(自然科学的根拠)政策決定者向け要約(令和3年〔2021〕年8月文部科学省・気象庁・環境省)に加筆

(2) 気候変動の影響の深刻化 ～気候危機

温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化により、様々な気候変動が引き起こされており、世界では、自然災害や食料不足など、生活への影響のほか、命に関わる被害が発生している地域もあります。しかも、厳しい温室効果ガスの排出抑制に取り組んだとしても、今後数十年にわたり温暖化が続き、気候変動の影響がさらに深刻化すると考えられています。

気候変動の影響は、既に私たちの身近な生活に及んでおり、将来の世代にわたる影響が懸念されます。人類や生物の存続基盤を揺るがす問題として、「気候危機」とも呼ばれています。

(3) 昭島市でも気候変動の影響がリスクとなる

市内でも、台風や局地的な豪雨による気象災害が既に起こっており、将来に気候変動が進むことで浸水被害や土砂災害などの発生リスクが増大する可能性があります。また、気温上昇による熱中症被害や感染症の発生による健康影響も懸念されます。

さらに、市内の自然環境にも影響が及ぶ可能性があります。気温や降水量などの環境条件が変化し、生物の生息・生育域の移動、減少、消滅などを引き起こし、外来種の侵入・定着、湧水の枯渇につながる懸念があります。また、台風や局地的な豪雨に伴い、崖線の樹林地で土砂崩れや街路樹の倒木などが発生し、昭島の水と緑と同時に人的・経済的被害の発生が懸念されます。

図 1-4 21 世紀末の日本での気候変動の予測（20 世紀末との比較）



（4）脱炭素社会へのさらなる取組

気候変動への対策は、産業革命前からの世界の平均気温上昇を2°Cより十分低く保つとともに、1.5°Cに抑える努力が必要で、そのために今世紀後半に人為的な温室効果ガスの排出量を正味ゼロとすることを目指す必要があるというのが、世界の共通認識となっています。地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減に取り組むことを約束した「パリ協定」に沿って、世界各国で脱炭素社会に向けて動きはじめています。国内においても、地方自治体や事業者により、脱炭素社会の実現に向けた積極的な取組が広がっています。

東京都をはじめ、令和32（2050）年までの二酸化炭素（CO₂）排出量の実質ゼロを表明した地方自治体「ゼロカーボンシティ」は、464自治体に及んでいます（令和3〔2021〕年9月30日現在）。民間企業においては、化石燃料に依存しない事業活動が求められるようになり、事業運営を100%再生可能エネルギーで調達する目標を掲げる企業が、国際的な取組「RE100」に参加しています。

温室効果ガスの排出を抑制（緩和）し、気候変動の影響に備える（適応）

二酸化炭素（CO₂）をはじめとする温室効果ガスは、市民生活や事業活動に関わる全ての活動から発生しています。他方、気候変動による影響は、自然災害や健康をはじめ、生活環境、自然環境など、私たちの生活・暮らしのさまざまな分野に及びます。

- 省資源・省エネルギー型のライフスタイルのさらなる普及、再生可能エネルギーの導入強化、資源循環など、温室効果ガスの排出抑制への取組（緩和）が求められます。
- 同時に、既に起こっている気候変動の影響やこれから起こりうる影響に対し、被害を回避・軽減する「適応策」に取り組み、市民生活や事業活動の継続を支え、健康で安全・安心な暮らしを確保していく必要があります。
- これらの気候変動対策は、中長期的に取り組むべき課題であり、人口減少や産業振興、防災、健康増進といった地域の課題解決にも効果のある施策から取り組むことが有効です。

3 昭島市のこれから

これまで見てきたように、まちの魅力となっている昭島の水と緑を次世代に引き継ぐこと、気候変動の影響に備え、脱炭素社会を目指して取り組むことは、昭島市の主要課題と言えます。

他方、昭島市では、人口減少・超高齢社会の到来や、世界的に流行する感染症への対応を見据えた新たな生活や仕事のスタイルへの転換など、大きな変化に直面しています。

このような中、社会や生活スタイルなどの変化に対応しながら、エネルギーや資源の消費、昭島の水と緑との関わりなどに目を向け、私たち一人ひとりが自らの生活や事業活動を見直していく必要があります。

こうした一人ひとりの取組、市民・事業者・行政の連携・協働による取組が、地域の課題解決につながり、ひいては世界全体が取り組む環境問題の解決につながっていきます。よりよい未来の暮らし・社会のために、自らの行動を変え、社会や暮らしのあり方を変えていくことが期待されます。

図1-5 将来人口推計

